

(様式3)

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月：平成 28 年 8 月

1. 対象事業	公共下水道観音寺処理区 合流式下水道緊急改善事業
2. 実施主体名称	観音寺市
3. 計画期間	平成 16 年度～平成 25 年度
4. 対象事業の進捗状況	

対象事業は、平成 25 年度までに完成している。

改善目標	改善対策	H21	H22	H23	H24	H25
汚濁負荷量の削減	雨天時活性汚泥法の導入 (反応槽水路にゲートを設置)			設計	施工	施工
公衆衛生上の 安全確保	遮集量の増強 (現有の第一ポンプ場の能力を最大限活用し 処理場への送水量増強)	対策 済み				
夾雑物の削減	スクリーンの目幅縮小 (改築更新に併せて 25mm 目幅の スクリーンを設置する)			設計	施工	施工

5. 目標の達成状況と達成の見通し

緊急改善事業計画において予定した対策施設はすべて整備しており、モニタリング降雨時において各種改善目標を達成している。

処理区	区分	評価指標	平成 21 年度末 (計画策定時)	目標値	事後評価 (平成 28 年度)
観音寺 処理区	汚濁負荷量の 削減	放流汚濁負荷量 削減達成率	85% 一部未対策	目標削減負荷量 12.0 t/年	100% 12.0 t/年
	公衆衛生上の 安全確保	未処理下水放流回数 削減達成率	100% 対策(34回/年)※	目標放流回数 45回/年	100%以上 43回/年
	夾雑物の削減	雨水吐対策率	0% 未対策	吐口における 夾雑物の削減	100% 第一ポンプ場 吐口で対策実施

※代表降雨年でのシミュレーション値である。

6. 対象事業の整備効果の発現状況等

平成 28 年度（対策後）にモニタリング調査を実施したところ、浄化センターにおける調査期間中の BOD 除去率は、緊急改善計画での総合除去率 91.7% に対し、1 回目 95%、2 回目 93% といずれも上回っていた。

未処理放流回数は、改善目標 45 回/年に対し、平成 27 年 1 月～12 月で 43 回/年となっており改善目標をクリアしていた。

夾雑物の削減については、2 回のモニタリング降雨終了後、微細なゴミが捕捉されていることを確認した。

以上より、確実に改善対策の整備効果が発現している。

7. 事業の効率化に関する取り組み状況

現有の第一ポンプ場の遮集能力と水処理施設の余裕を利用して高級処理を実施し、公衆衛生上の安全確保および概ね目標値の汚濁負荷の削減を行っている。残る汚濁負荷の削減に対し、雨天時活性汚泥法等を採用することでコスト縮減を図り、改善率 100% を達成している。

また、第一ポンプ場吐口にスクリーンの目幅を変更して、夾雑物の流出を抑制している。

8. 今後の方針

事業の完了により、現状で改善目標は達成済みである。

今後も年 1 回の法定モニタリングを実施し、対策効果の確認を行う。

また、今回のモニタリングでは、水処理能力に余力があるため簡易処理が行われなかった。今後面整備により流入汚水量が増加し、簡易処理が行われる段階で簡易処理も含めた評価（モニタリング）を実施することを視野に入れ、事業継続を図る。